

## ▼オンコビン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ビンクリスチン硫酸塩 (U) Vincristine Sulfate 【分類】抗悪性腫瘍剤 [ビンカルカロイド]

【単位】▼1mg/V

【常用量】添付文書参照

【用法】週1回静注 (1) t1/2 が長くクリアランスが小さいため1週間に1回投与でよい (11) その他の用法は添付文書参照

【透析患者への投与方法】常用量 (1,3,4,6,12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量 (3,10,12)

【特徴】細胞の有糸分裂の中期に作用し、細胞分裂中期停止を起こす。血液腫瘍・肉腫を中心に抗腫瘍活性を示す。

【主な副作用・毒性】末梢神経障害、筋力低下、運動失調、脱毛、白血球減少、消化器症状、振戦、痙攣、昏睡、便秘など

【安全性に関する情報】神経毒性は高齢者に出現しやすく総投与量と関連 (1)

【代謝】肝で代謝され70%が3日以内に胆汁に排泄される (11) 肝でCYP3Aで代謝 (U) CYP3Aが関与 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率12% (12,14) 10~20% (13) 胆汁から糞便中に80%排泄, 尿中には10~20%回収 (U) 15%が尿中排泄 (6) P糖蛋白質の基質であり未変化体のまま胆汁中に排泄される (13)

【CL】 $0.106 \pm 0.061 \text{ L/kg/hr}$  (1)  $128 \text{ mL/min}$  (10)  $4.92 \text{ mL/min/kg}$ , 肝硬変・胆汁うっ滞型肝障害で低下 (13) 【腎 CL/総 CL】5% (10)

【t1/2】三相性に消失 (U)  $\alpha$ 相:  $5 \text{ min}$  (U)  $0.1 \text{ hr}$  (6)  $0.08 \text{ hr}$  (11)  $\beta$ 相:  $2.3 \text{ hr}$  (U)  $2.3 \text{ hr}$  (11)  $0.8 \sim 2.6 \text{ hr}$  (4)  $1 \text{ hr}$  (6)  $1 \sim 2.5 \text{ hr}$  (12)  $\gamma$ 相:  $85 \text{ hr}$  (U,10,11)  $23 \text{ hr}$  (6)  $85 \text{ hr}$  (14)  $22.6 \text{ hr}$ , deep compartment があるため  $85 \text{ hr}$  という報告もある。肝硬変で延長 (13) 【透析患者の t1/2】 $0.8 \sim 2.6 \text{ hr}$  (4)  $\gamma$ 相:  $85 \text{ hr}$  (10)

【蛋白結合率】48.2% (1) 75% (U,4,10,12) 40% (6) 低い (13)

【Vd】 $8.4 \text{ L/kg}$  (1,10,11,14)  $96.9 \text{ L/m}^2$  (13)  $5 \sim 11 \text{ L/kg}$  (12)

【分布】血液脳関門をほとんど通過しない (U) 中枢神経系に移行する (11)

【MW】923.04 (遊離塩基として825)

【透析性】除去されない (Onkologie 13: 289-294,1990) 資料なし (1)

【TDM のポイント】一般的にTDMは実施されていない

【O/W 係数】2.15 (11) 資料なし (1) 【pKa】5.0, 7.4 (1)

【相互作用】CYP3Aの代謝阻害により副作用増強 (1) フェニトインの吸収低下 (1) イトラコナゾール併用により肝障害, 便秘, 痺れ, 低Na血症などのビンクリスチンの毒性が発現した症例 (長瀬大輔, 他: 日治療会誌 56:634-7, 2008)

【更新日】20250515

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。